

まちづくり仲間づくり自分づくり

平成16年度に第1期志布志創年市民大学が開校し、今年で14年目を迎えました。

これまで、年齢・職業を問わず、市内外から300名を超える学生が（今期は90名）が入学し、学習しています。

今月は志布志創年市民大学について紹介します。少しでも興味を持たれたら、この機会に受講を考えてみてはいかがでしょうか。

志布志創年市民大学とは

まずは『創年』について説明します。「新たな人生に挑戦する、生涯現

役を目指す人々」を創年と呼んでいます。具体的には、実年齢を7掛けして、活動意欲を持つことを推進する言葉です。

次に、志布志創年市民大学の活動目的について説明します。志布志創年市民大学は『まちづくりの方法を学び、実践を目的とする学び舎』です。県内外から、ユニークなまちづくりに取り組む方々を講師にお迎えして、講義をしていただいています。その中から自分のまちに合ったまちづくりのヒントを得て、実践に向けて取り組んでいます。



福岡 強名憲字長  
(全国生涯学習まちづくり協会理事)



原口 泉学長 (志学館大学教授)



志布志創年市民大学の特色

主な学習内容

昨年(第13期)までに組まれたカリキュラムは210項目、そして、講師の数は100名を超えます。

『おもてなしによるまちづくり』『人・文化・歴史・自然など、身近にあるものを利用したまちづくり』の他、多くのまちづくりの形を学んでいます。

また、まちづくりに関する話だけでなく、『メディアでは報道されない、復興支援の苦悩と問題点』『当たり前前に生活ができていくこと』の素晴らしさ』『志布志・鹿児島島の歴史と偉人の活躍』など、教養を高めたり、地域を学んだりする講座も開かれています。

学ぶだけではない

志布志創年市民大学には、学ぶだけではない楽しみもあります。

夏には親睦を深めるために、ピアガーデンでまちづくり懇話会【写真1】が行われます。「今日初めて話

したのに旧知の仲のように打ち解けた」と言う方もいます。

秋にはまちづくりの研修を目的としたミステリーバスツアー(修学旅行)【写真2】が行なわれます。普段は講師を招いての講義ですが「現場に行く」と一段と刺激を受ける」と参加者は言います。

冬にはクリスマスコンサート【写真3】を行い、多くの人に楽しいひとときをプレゼントしています。素晴らしい生演奏はもちろん、特に地元高校生との競演が喜ばれていました。

そして、忘れてはならないのが、志布志創年市民大学初の実践企画の『しぶし子どもフェスティバル』【写真4】です。平成19年に学習した講義、角田子どもフェスティバル(宮城県)を参考に、市民大学の学生が主体になり取り組んでいます。学びを還元するとともに、「創年と子どもたち」を謳う市民大学にぴったりのイベントと言えます。



【写真1】親睦が一気に深まります。



【写真2】日本で唯一の「鮭神社」参拝。



【写真3】心に響く演奏に涙する人も。



【写真4】子どもに大人気のわりばしテッポウ。